

平成 27 年度 第 2 回作井技術委員会議事録

作井技術委員会 事務局

開催日時:平成 28 年 3 月 29 日(金)15:00~17:30

開催場所:石油資源開発(株)12 階 1202 会議室

出席者:武村委員長、戸田、日野、池田、古谷、菅野(代理)、前田、福嶋、長縄、小林、住廣、有澤(代理)、森山、大門、石黒、小川、中台、遠藤、重満、岡本、中谷(代理)、片岡 計 22 名(欠席 16 名)

◇作井技術委員会(15:00 ~ 16:15)

議題 1:作井技術委員の異動について

- アブダビ石油株の廣島氏が異動になったため、同・住廣氏へ交代。
ジャパンマリンユナイテッド株の根本氏が異動になったため、同・重満氏へ交代。
早稲田大学の古井准教授を新たなメンバーとして委員に迎えた。

議題 2:各分科会活動報告

大水深掘削技術分科会

- 第 20 回、21 回会合の概要を説明(詳細はホームページに掲載済の分科会報告を参照)。
次回開催は、2016 年 5 月を予定している。

議題 3:理事会報告

- 第 60・61 回石油技術協会賞「奨励賞」「特別賞」の新設、協会誌投稿原稿制限枚数の変更 等について報告。

議題 4:平成 28 年度 春季講演会 作井部門 準備進捗状況

- 1) 春季講演会概要(石油技術協会の会告)
- 2) 作井部門講演プログラム案
 - 個人講演:16 件の口頭発表、1 件のポスター発表の申し込みがあった。
 - 4 講演毎に 20 分の休憩時間を入れ、その間前年同様に発表者への質問タイムを設ける。
 - ※ 作井部門ポスター発表のコアタイムは、委員会の後、発表者と話し合い、探鉱部門のコアタイムと同じ時間帯(6 月 9 日 12:40 - 13:30) に設定した。
- 3) シンポジウム講演
 - 趣意書の承認
 - 委員の承認を得た。
 - シンポジウムプログラム案と進行方法の説明

- 各社から提案いただいた講演内容、および現時点でのプログラム案の紹介。
- 昨年度同様、少人数グループ意見交換を組み入れた討論を行う。午前午後ともに経験年数で少人数グループを分け世代間での視点や意見の違いを引き出し、全体討論を行い、技術の伝承を成功させる手掛かりを掴みたい。
- 委員から出た意見

技術とマネジメント力

- ・ 作井ではマネジメント能力が重要なので、技術に止まらずドリリングマネージメントの話盛り込んでほしい。

JDC の発表「次世代リーダーの育成」

- ・ 会社経営者の育成に焦点を当てており、技術者の育成がテーマであれば、発表の内容としては不適切かもしれないので、講演では「人財育成理念」と「共通コンピテンシーの定義」までとしたい。(JDC)
- ⇒ 昨今はどの会社も CDP (Career Development Plan) を持っていて、その中でもマネジメント能力の向上が注目されてきているのではないかと思う。JDC さんが行った人材の分析や必要とされる人材像抽出の部分は非常に興味がある。コンサルタントの分析結果をどのように利用したのか、経営者育成を主軸にしない形での紹介を是非考えていただきたい。

シンポジウム前に実施するアンケート(各人がイメージしている理想のエンジニア像について)

- ・ 「自分の理想像」と「自分がなりたいエンジニア像」が一致しないことがある。
- ・ 例えば「エンジニアにとって重要なのは」という質問に対して「理論」と「経験」とあるが、自分なら両方大事なので両方と答える。
- ・ アンケートに回答者の年代が分かるような工夫をするようだが、業種(カンパニー、コントラクター、サービス会社 等の区別)が分かるものも加えた方がいい。
- ⇒ 事務局でアンケートの採り方について 2 択等を含め改めて検討した後、委員にコメントをいただくこととする。
- ・ アンケートは結果の集計(昼食後に結果発表)を考えると、事前に実施しておくことが好ましい。
- ⇒ 作井技術委員を通じて、アンケートの事前回答を働きかける。
- ・ 講演の前後で変化が分かるように、シンポジウム講演後にも同じアンケートに答えてもらう。また、集計したアンケートの結果は講演原稿に含め、協会誌に載せる。

■ その他

- シンポジウム後の懇親会実施
 - ・ 参加人数 50-60 人で会場を仮予約済(店名:ブラッツ)。
 - ・ 後日、事務局から委員に連絡するので、自身の組織の参加予定人数の取りまとめ

めに協力願う。

- ・ 技術委員会の運転資金から 80,000 円程度(H27 年度と同額)拠出予定。

議題 5:その他

1) HP 委員会報告

- ホームページの使い勝手に関するアンケートを紹介(協会ホームページメールマガジン 第 14 号にお知らせあり)。

2) 若手技術者交流会

- 平成 27 年度に発足。現在、在籍メンバーは 53 名(13 組織)。
- 今年度は交流会を 2 回実施した。
 - 第 1 回目:2015 年 9 月 29 日、講演者:片岡 翔(石油資源開発)
演題:「ちきゅう」大水深科学掘削に携わって
 - 第 2 回目:2016 年 1 月 26 日、講演者:黒田 佳宏(国際石油開発帝石)
演題:大水深サバ沖 探掘井掘削概要
- 次回開催は未定だが、メンバーの希望を聞いて、内容や時期を決める。

3) 当委員会の今年度決算

- 今年度も活動費内で収まった。残金は石油技術協会へ後日返金する予定である。

◇特別講演(16:30 ~ 17:30)

演題:「JACOS HE Drilling Project」

講演者:松野 郁右(日本メタンハイドレート調査株 企画部 技術グループ)

- JACOS 会社概要および Hangingstone Expansion の掘削計画概要、掘削技術ピックについて発表。技術ピックとしては、SAGD 坑井の概要、使用される Rig の特徴、使用した掘削技術(傾斜掘りツール、掘削泥水、仕上げ編成 (Sand Control, Flow Control Devices) 等)について紹介した。

以上